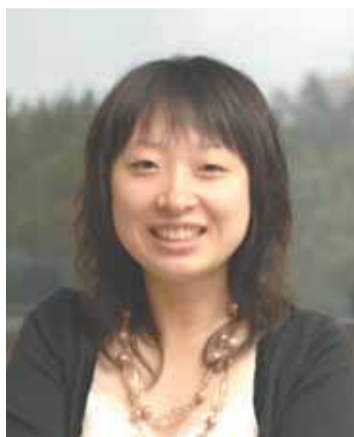


10月20・21日開催 第48回金城祭実行委員長が報告



実行委員長 井上知美さん
(人間科学部 芸術表現療法学科3年)

今年
は3年生の委員が私一人だったので、委員長としてま
とめていくことになりました。

昨年までのように委員の一人としてではなく、全体
を統括するという重要な役割に、責任の重さを感じて
いました。その中で心がけていたのは、メンバーと納
得するまで話し合
って決めること。
最終的に決断する
のは私ですが、メ
ンバーと一緒につ
くりあげていくこ
とを大切にしたか
ったからです。



特設ステージのオープニングで行われた
箏曲部によるアンサンブル

実行委員会が活
動を始めたのは、1
年生が入学して間
もない頃でした。
開催日までおよそ6
ヶ月。余裕がある
ようで、実際はあ
っという間でした。

委員会のメンバ
ーは全部で27人。
実質的なリーダー
は就職活動で忙し
い4年生ではなく、
3年生です。



「Fantasy」というテーマで製作された
ファッションショー

いずれも好評でした。特に、金城祭の目玉となる「プ
リンセス金城」(事前のオーディションを受けた本学
の学生たちが、美しさや知性などを総合的に評価、選
出されるイベント)のコンテストは、大いに盛り上が
りました。また、速水もこみちさんのトークショーも
開催。去年より模擬店
の数も増えて賑やかで、
本学の学生だけでなく、
地域の方々にも楽しん
でいただけたと思います。

今振り返ってみると、
慌しくも充実した毎日
でした。メンバーをは
じめ、他大学や地元の方、
企業の方との出会いは勉強になることが多く、今では
かけがえのない財産になっています。毎年「スタッフ
説明会」で実行委員を募集しています。ぜひ委員にな
って、多くの人と一緒にやり遂げる充実感を味わって
ほしいですね。



多彩な呼び込みの声も賑やかな模擬店

学生たちの手で大森・金城学院前駅のイメージを一新



学生有志で駅をイメージアップ



オープンキャンパス(7月29日実施)当日、情
報文化学科の学生たちが、大学の玄関と言える「大
森・金城学院前駅」のイメージアップ活動を行いました。

題して「イツ・キンジョー・ステーション06」
プロジェクト(it's Kinjo st. '06)。訪れる高校生に楽
しんでいただけるよう長い期間をかけ企画・準備し、駅の一部の看板やポスター、
通路、空き店舗になっているテナントなどを金城色で統一しました。デザインの
コンセプトは「モダン・アイボリー」。背景にアイ
ボリーを用い、球や円を「柔らかさ」「しなやかさ」
のシンボルとして使って演出。そのほかにも、駅
構内のケーブルテレビで自主制作した番組、学科
紹介が流され、歓迎ムードいっぱいの賑やかなオ
ープンキャンパスとなりました。



「金城学院と教会はあの子の人生の要でした」 卒業生、筒井佳美さんご家族の話がドラマ化～ご家族が語る佳美さん～

CBC開局50周年記念として10月15日に放送されたドラマ「命の奇跡」は、心臓病のため23歳で早世した女性とその家族の物語。実はこのドラマ、事実をもとに制作されたもので、松浦亜弥さんが演じたその女性は、金城学院中学校・高等学校の卒業生。筒井宣政さん陽子さんご夫妻の次女・佳美さんなのです。

佳美さんは、生まれてすぐに重度の心臓病と診断されただけでなく、幼稚園でも小学校でもいじめに遭い、苦難の連続でした。そうした中で教会に通い始めたのは幼稚園のとき。小学4年生になると「神様の子どもになりたい」と自ら希望し、洗礼を受けました。

キリスト教への親しみは、本校入学のきっかけに。一歳上の姉・奈美さんが本校中学校に合格したことを知り、佳美さんも入学を希望するようになったのです。通園・通学さえままならない日常生活で、勉強まで手が回らず5年生で2年生位の学力でしたが、周囲の献身的な指導の中、受験のための猛勉強が始まりました。一度は不合格となっても、挫けることなく6年生をもう一度やり直し、合格を勝ち取りました。

陽子さんは当時の思い出をこう話されます。「私が合格通知をいただきに学校にいくと、お会いしたどの先生からも『お母さんよかったね。よく頑張ったね』と、校長先生からは『学校までの送り迎えだけしていただければ、校内での事は教職員が見守りますからご安心ください』という温かいお言葉をいただきました。それから6年間、下駄箱も教室もずっと一階で、負担のないようにしてくださいました。」

ご両親の佳美さんを思う気持ちは、全くの専門外から人工心臓の研究開発に向かいました。完成には莫大な資金を要するため途中で断念しました



右から筒井さんご夫妻と長女・奈美さん

が、それまでの研究を活かし、救命救急用医療器具「IABPバルーンカテーテル」の初の国産化に成功。今までに5万人の命を救っています。

ただし、開発したカテーテルは佳美さんを救うことにはなりません。あくまで救急用であり、完治に導くものではなかったからです。それでも佳美さんは、カテーテルが販売されるたび、「また一人助けることができたね」と喜びを表したそうです。

どんなに辛い状況に置かれても、失わなかった明るさ。そんな佳美さんの心を育ててきたのは、本校での幸せな学校生活だにご家族は話されます。「キリスト教の精神が根底にある学校での生活は本当に良かった。佳美には人を助ける仕事の大切さも教えてもらったように思います」と宣政さん。奈美さんは「佳美ちゃんに金城学院と教会がなかったら、どうなっていたんだろう」と話されると、陽子さんが「金城学院に通ってからは、いい先生、いい友達に会い、本当によくしていただきました。あの子にとって、金城学院と教会は人生の要でした」と答えてくださいました。

東区で開催のイベントで 部活動の成果を披露

11月3日の文化の日になんで開催されたイベント「歩こう！文化のみち」で、高校の生徒たちが日頃の部活動の成果を披露しました。



このイベントは、東区が毎年企画しているもので、名古屋城から徳川園までの歴史遺産や町並みを参加者が自由に巡るといったもの。同区の企画に本校が協力して6回目となる今年は、本校の「榮光館」講堂で、グリークラブが演奏したほか、作家・井沢元彦氏が講演。また、豊田佐助邸では、美術部と書道部の作品展や管弦楽の演奏、大学との合同茶道部による「野だて」が催され、地域の人たちとの交流を深める良い機会になりました。また、約50名の本校中学・高校生がボランティアスタッフとして活躍しました。

体育祭で鮮やかに演技 伝統行事になっている阿波踊り

9月29日、愛知県体育館で体育祭を開催。毎年恒例の生徒たちによる阿波踊りは、クラス対抗でオリジナリティが競われるなど、大いに盛り上がりました。

体育祭での阿波踊りは、昭和32年以来行われている伝統行事。本番までに、振り付け練習や浴衣の着付けなどを学びます。特に今年は、本場・徳島から「蜂須賀連」の方々を迎え、踊りの講習会を開催。その様子が徳島県広報番組として、テレビで放送されました。生徒たちの練習にもより熱がこもり、体育祭での踊りを終えたあとも、「踊っても見ても楽しかった」「これからも続けてほしい」という声を多く聞くことができました。



恵愛祭で各学年がテーマを掲げ団結!

今年も恵愛祭を無事に終えることができました。今年の恵愛祭は「共に生きる～みんなで幸せさがしましょ～」をテーマに掲げ、各学年で取り組んできた総合的学習の授業を中心に、1年生は「新しい学校生活～自分に気づく～」、2年生は「情報発信～私たちがPRしたいこと～」、3年生は「平和と環境～地球の未来



受付風景

を考える～」という各テーマのもとに生徒一人ひとりがよく考え、協力し、とても素晴らしいクラス展示を作り上げることができました。外来者の方々からも多数のお褒めのお言葉をいただきました。また、日頃から熱心に活動している部・同好会のステージや展示においてもとても力の入ったよいものが出来上がりました。

9月18日(月)の当日には3,697名もの方々が恵愛祭を見学に来られました。大変忙しい一日でしたが、生徒たちが自



クラス発表



グリークラブ

分の役割を守り、よく働いていました。恵愛祭を通して生徒たちが人間的にも成長することができ、一人ひとりの個性を最大限に活かせる文化祭になったのではないかと思います。PTAをはじめ、みどり野会の皆様のご協力に感謝しております。恵愛祭は、すべての収益金を献金することにしてはいますが、今年度は、次のように献金させていただきました。

収益金 293,280 円は AHI (96,640 円)、止揚学園 (96,640 円)、わっぱの会 (50,000 円)、さふらん生活園 (50,000 円) に献金。また、生徒会主催の赤十字への募金は 6,653 円集まり、赤十字へお送りしました。なお、みどり野会より 100,000 円を生徒会活動の一助にいただきましたことを併わせてご報告いたします。



茶道部

夏のボランティア

この夏延べ4週間ほど、中学校では、「身の丈ほどのお手伝い」を掲げ、ボランティアを行いました。

高校から紹介された施設をもとに「清水なかまの家」「明星幼稚園」「南山幼稚園」「炊き出し」を選び募集したのですが、応募者が多く抽選で選んだため、行くことができず残念な思いをした生徒もたくさんいました。

各施設での活動の内容を詳しく紹介することはできませんが、どの施設でも相手先の先生方や、ボランティアの方々に親切にさせていただき学ばせていただきました。特に、高齢者のお宅に夕食を届けた時には、孫のような中学生の訪問を心から喜んでくださるお年寄りに接し、「私でも喜んでいただける」という深い感動を覚えたようです。



10月6日の礼拝で全校生徒にスライドを用いて報告をいたしました。

歌舞伎の世界を体験

今年の国語鑑賞会は10月4日(水)御園座で歌舞伎を観ました。中学生ということで、まず、南山大学教授の安田文吉先生による鑑賞教室の時間がもたれました。先生は「すっぽん」とよばれるせり上がりの装置で、おどろおどろしい効果音とともに登場して生徒たちの歓声をあび、歌舞伎の基礎知識や作品の見所などについて楽しくわかりやすいお話をしてくださいました。

その後、休憩や食事の時間をはさみながら、歌舞伎十八番の内「矢の根」や「藤娘」、「越後獅子」、そして中村鴈治郎改め坂田藤十郎主演の「盛綱陣屋」などを鑑賞しました。少し難しい演目もありましたが、イヤホンガイドによる解説を聞きながら、普段はあまり触れることのない伝統芸能の世界を体験しました。特に「盛綱陣屋」では、藤十郎さんの珠玉の演技や、まだあどけない子役の涙を誘う熱演に多くの生徒が引きこまれていました。



安田文吉先生



坂田 藤十郎

讚美礼拝に向け園児たちが心を込めた準備



ペルのツリー

秋も深まり、運動会、いも掘り、おいもパーティーと楽しい行事が続き、いよいよアドベント（クリスマス待降節）を迎える頃となりました。

幼稚園でも、12月14日（木）に全親子でクリスマス讚美礼拝を予定しています。

金城学院幼稚園の讚美礼

拝は、聖書に基づいてイエスさまの生誕劇を行い、クリスマスの意味を感じ、神さまに感謝の礼拝をするものです。アドベントに入る前にこの生誕劇のため



トーンチャイム

の配役を年長児が決定します。年少児からの経験をもとに、子どもたちは話し合いで決めますが、希望の多い役を決定するこの瞬間は、一人ひとりの心が揺れ

動く時です。さらに希望の役になれなかった仲間の悲しい気持ちを知って、思いやりのある言葉がけや

真剣な表情に、成長を感じる時もあります。年中児は聖歌隊としてキャンドルを持って賛美歌を歌い、年少児も小さい星や小さい天使や羊の役割を担います。



聖歌隊

年長児は場面ごとに、歌やセリフ、役の動きの練習を少しずつ積み重ね、最後に全員で合わせて当日を迎えます。

幼稚園では、この練習を『ハレルヤ（主を讚美せよ）』と呼んで行っています。それは、その一回一回が、イエスさまを心に迎える礼拝として捉えているため



ハレルヤ 羊飼いの場面

です。保育者とともに祈りをして始め、子どもたちが「ちゃんの歌が上手なところが良かった」「大きい声でよく聞こえた」と素直に相手を認め合う姿に感動を覚えて終わります。このような『ハレルヤ』



ハレルヤ 天使の場面

の経験の中で一人ひとりの思いとそれぞれの成長を感じながら、心をこめて準備していく過程を大切にしています。

イエスさまが私たちのためにお生まれになったという喜びを分かち合う形として、おうちの方へのプレゼントづくりも行い、おうちの方も子どもたちと保育者にも、心をこめて作ってくださっています。大きな喜びが子どもたちとご家庭にありますように祈っています。



プレゼント作り（和紙のカレンダー）



卒園児 加藤紗生ちゃんの実話をもとにしたうた物語「サキちゃんのおくりもの」を上演 ～生きることの大切さを教えてくれた～

「サキちゃんのおくりもの」といううた物語（守山の文化を考える会主催）が、10月21日（土）22日（日）に名古屋市守山文化小劇場で行われました。卒園児の加藤紗生ちゃんは、11歳の誕生日を目前に白血病のため亡くなりました。幼稚園や学校に通うのが大好きで、長期の入院生活と三回の骨髄移植手術に耐えながら精一杯生きました。この劇には、10名の卒園生や紗生ちゃんと同級生も出演し、幼稚園の遊戯室も練習会場となりました。多くの観客に生きることのすばらしさと生きていることの喜びを与えてくれました。

金城学院大学 × 日経WOMAN

第1回 キャリアトークセッション 開催

～「強く、優しく。」活躍する女性たち～

金城学院大学と日経WOMANとのタイアップによる「キャリアトークセッション」が10月27日（金）ランドルフ記念講堂で開催されました。

このイベントは、金城学院大学が掲げる教育スローガン「強く、優しく。」のアクションプランとして企画されたもの。リーダーシップを発揮するために必要な「強さ」と、協力しながら仕事をしていくためのパートナーシップを築くことのできる「優しさ」。この二つを兼ね備えたトップウーマンたちのトークセッションを、来年1月まで全3回の予定で開催いたします。



日経WOMAN編集長
野村 浩子 氏

第1回目となった今回のテーマは「ハッピーキャリアの法則」。日経WOMAN編集長の野村浩子氏がコーディネーターを務め、パネリストにコーセー執行役員でマーケティング副本部長兼商品開発部長の荒金久美氏、新生銀行マーケティング部部長の福田桂子氏を迎え、華々しいキャリアを重ねられている3人の今日までの苦労話や仕事にける情熱の



一端をお話しいただきました。来場者へのメッセージとして荒金氏が「今



コーセー執行役員
マーケティング副本部長 兼 商品開発部長
荒金 久美 氏

持っている特有の知識・能力も大切ですが、それ以上に自分の能力を出し切る術を知ることが大切。自分の持てる能力を全て出し切った経験を多くしてほしい」と話される



新生銀行マーケティング部 部長
福田 桂子 氏

と、福田氏も「仕事をしていて、『これ以上はもう無理だ』と思えることが何回もあります。そんなときは学生時代に徹夜してやり抜いた経験を思い出します。無理だと思ってもやり遂げる経験を重ねていけば、それが自分の幅を広げていきます」と応じ、野村氏も「大きなチャンスはいきなり巡ってくるものではありません。たとえ小さなことでも、成功体験を積み重ねて自信をつけることで次のチャンスが訪れるものです」とエールを贈られました。日本のトップウーマンたちの生の声は、来場者にとって自分の将来について考えたり、イメージしたりする良い機会になったことでしょう。

第1回目はこうして終了しましたが、今後も野村氏と新たなパネリストを迎えてのトークセッションを予定。次回の開催は12月11日（月）です。「強く、優しく。」活躍しているトップウーマンたちの熱いトークにご期待ください。

第2回 キャリアトークセッション 「仕事を楽しむ女性のプロ論」

日 時 / 12月11日(月)

開場 16:30 開演 17:00 終了 18:30 (予定)

場 所 / 大学ランドルフ記念講堂

出演者 / ダイエー代表取締役会長 林 文子 氏

日経WOMAN編集長 野村 浩子 氏



パネリスト
ウォールストリート・ジャーナル紙
「注目する世界の女性経営者50人」
に日本人でただ一人選出。(2004年)

ダイエー代表取締役会長
林 文子 氏

どなたでもご自由にご参加いただけます。 申し込み不要